



最低・最悪！の遠隔授業

－「極端思考ワークショップ」報告－

高等教育院 山田 勉

近年、対話によって授業における議論を深める重要性が指摘されています。

10月中旬に、私が担当する一般教養科目「社会学 A」の授業の一環として、学生が望む「最高の遠隔授業」を提案してもらうために、「極端思考ワークショップ」を実施しました。遠隔授業にかかわり、教職員のみなさまのご参考になればと考え、本日はその様子についてお伝えいたします。

極端思考ワークショップ

極端思考ワークショップとは、あえて対極にあるようなテーマ設定をすることで、参加者の視野を拡げて意見の抽出を目指すアプローチです(塩瀬, 2012)。事前に受講生にはそのことは伝えず、「最低・最悪!の遠隔授業」(架空のもの)を単に考えてきてもらい当日を迎えました。ちなみに、本授業も Zoom による遠隔授業です。

次回の予定

▶ 第4回「遠隔授業を使いこなせ」

- ▶ 対象(世界)との対話(3)
- ▶ 遠隔授業を題材に、「テクノロジーを相互作用的に用いる」について、突っ込んで考えます
- ▶ 討議・発表「こんな遠隔授業はイヤだあ〜！」

* 予習

「最低・最悪!の遠隔授業」(架空のもの)を一つ考えてきてください(オンデマンド授業を含む)。

例) 最低・最悪の修学旅行「コロナ感染拡大防止のため、県外に出ず、三密回避でバスにも乗らず、学校の周辺を、ソーシャル・ディスタンスを保って全員で歩き、あえて個別に撮った写真をコラージュで集合写真にして、記念撮影したことにする。」

20

最低・最悪の遠隔授業

各グループが討議の結果として選んだ「最低・最悪!の遠隔授業」は、以下の通りです。

- ① 先生のうしろにスポンサーがついていて、授業中にとばせない広告が流れる。先生が、ささやき声で片耳からだけ聞こえるような感じで話しかけてくる。ポテトチップスを食べたりしている。

- ② 医学部の解剖実習で、学校で検体を解剖することができないので、かわりとなるマウスとかが各家庭に送られ、それを、動画を参考に一人で解剖する。
- ③ 大人数の授業で、使いづらい端末を指定されていて、ハウリング音などうるさい音が入ってしまうのに全員ミュートさせてもらえない。
- ④ Zoom に入るのにお金がかかる。Zoom でチャットの機能がないので、先生の声が聞こえなくても、それに何も反応できない。先生の講義ノートがバーチャル背景になっていて、先生がそれを使って授業をするけど、先生がいるから見えない。
- ⑤ オンデマンドなのに、授業の時間にしか見られない。授業の時間よりやたら長い動画が来て、課題をやらなきゃいけない。
- ⑥ 通学・帰宅時間に左右されない結果、授業のコマ数が大幅に増加して、レポートなどがたくさん出されて、学生の自由な時間が削られることになる。

【 討議→代表者がチャット 入力】

(10分)

<こんな遠隔授業はイヤだあ〜！>



- ▶ 6つのブレイクアウト・ルームに分かれます
- ▶ グループごとに討議して、「最低・最悪！の遠隔授業」を決定。
- ▶ 終了後に、討議結果を全員に向けてチャットに入力して共有。
(カメラ・マイクONで発表でも構いません。)
(他のグループの方は、メモを取りながら聞いてください。)
- ▶ オンデマンド 授業を含みます。あくまで架空のもので、笑える案をお願いします。

8

若い学生の発想力はさすがです。私も大笑いしましたが、学生もその多くはカメラ ON・マイク ON で大笑いしながら発表してくれました。(授業では、それぞれの事情に配慮して、画像・音声の有無やチャットの宛先は任意にしています。)

ネガティブなものが逆転の発想につながる

さて、次はいよいよ、その「問題点を逆手にとって楽しめる工夫」を考える「極端思考」に挑戦します。3分ですが、個人作業としてアイデアをまとめる時間をグループ別討議の前に設けました。

討議結果は、以下の通りです。

- ① バーチャルリアリティを活用して、実習はそれで行う。対面でないとできないと考えず、仮想世界ですべてをやってみる。
- ② 学生が発表したら、スポンサーからお金がこっちに(学生に)入る。90分の授業は疲れるので、休憩時間にはむしろ広告を流したらよい。
- ③ とばせない広告のお金を学校に入れることによって、学校の施設整備につなげる。あるいは高い教科書代の補助として大学が使用する。

- ④ 教授の顔とか声がリアルタイムで編集されて、自分の好きなアニメのキャラとか女優になり、学生のモチベーションがあがる。
- ⑤ スライドのスピードがいつも速くて書ききれないという意見があって、バーチャル背景がノートなのはその方がわかりやすい。
- ⑥ 授業のコマ数が(実質的には)増やされて自由な時間が削られるので、増えた分だけ単位数が増えることに変更する。

「極端思考」ワークショップ

- ▶ あえて対極にあるようなテーマを設定することで、参加者の視野を拡げて意見の抽出を目指すアプローチ
- ▶ 課題の解決方法は、二種類
 - ▶ 素直に問題点をつぶす方法(**打ち消すアイデア**)
例) “空港から目的地までが遠い”という問題なら、“交通インフラを整備する”
 - ▶ 問題をそのまま活かす方法(**価値あるものを見出す**)
例) “遠い”という **問題点を逆手に取って**、“目的地までの旅を楽しむ工夫”を考える
(塩瀬他, 2012)

トロッコ列車にする!

打ち消すアイデア ← 最低・最悪の修学旅行 → **価値あるものを見出す**

(コロナ禍の解消不可)

従来の修学旅行を、
三密を回避しつつ断行

国内外各地のブレイクアウト
ルームびっくり企画を、
グループで訪問。時差も楽し
み。訪問動画を編集して
メモリアル映画に。

友達と一緒に体験する
Zoom-RPGゲーム!

10

【 個人作業 】

(3 分)



- ▶ ネガティブなものには、**逆転の発想につながるヒント** があります。
- ▶ 遠隔授業の**問題点を逆手にとって**、授業を**楽しむアイデア**を考えてください。
- ▶ 3分経過後に、6つのブレイクアウトルームに分かれて討議に入ります。

11

- ⑦ どこかの大学にオンライン専門の学部をつくって、各大学がその仕組みを使って、単位や学位を出せるようにする。通信制と通学制の区別を全ての大学からなくせば、就活で学歴を書くときにも困らない。それなら設備費とか要らないので授業料を半分か2/3に程度にする。
- ⑧ 海外では授業中に教授がお酒を飲んでリラックスしているオンライン授業もあるようなので、楽しいだけで良いのかという問題はあまるものの、もっとオンライン授業を盛り上げていく姿勢が大事。

ワークショップを終えて

この回の授業のねらいは、テクノロジーの可能性を構想する力につながる発想を複数経験することでした。学生による極端思考の多くは、「バーチャルリアリティを徹底追及」、あるいは「広告料収入をとって有効活用(施設整備・教科書代・学費負担減)」というオンライン授業をむしろ楽しもうという回答であり、「オンライン授業でも対面と同じぐらい面白くなれるのかなど可能性を感じました。」という受講生の感想通り、対面より劣る授業形態という思い込みから学生が自由になるきっかけにはなったかもしれません。バーチャル背景を板書がわりに使うという Tips の提案もありました。私自身はこのコミュニケーションスタイルは今後も残ると考えており、それに対応できる能力の開発も課題のひとつだと思います。

ところで、同じ極端思考でも、「学修時間が増加した分だけ、単位数も増える」「全ての大学から通学制・通信制という区分をなくし、学費も下げる」という最高の遠隔授業は、大学制度の根幹に関わる指摘です。また、

「教員が酒を飲んでリラックスしている」「教授の顔とか声がアニメのキャラとか女優になる」「広告が流れて休憩になる」のが最高と考える意見からは、教員が眉間にしわを寄せたまま遠隔授業に臨み、学生もまたそれ相応の苦痛を受け疲れている様子が伺えます。「楽しいだけで良いのか」という問題はあるものの」という留保を自身の意見につけられる優秀な学生に対して、楽しみながらオンライン授業を実施できる工夫がまだまだ求められていると反省しています。

<参考文献>

塩瀬隆之・川上浩司・平岡敏洋 (2012).「極端思考からはじまる創造的アイデア」『計測と制御』51 巻 8 号, 759-764.

テクノロジーを相互作用的に用いる

(今日のおさらい)

「初めて真面目に考えた」

着目ポイント

- ▶ 情報・コミュニケーションに関わるテクノロジーがもたらす変容について考えたときに初めて、その真の可能性が現実化される
- ▶ 人々の働き方(場所の重要性の減少)
- ▶ 情報へのアクセスの仕方(広範・大量の情報、高速アクセス・分類)
- ▶ 他者との関わり方(仮想コミュニティ 形成の促進)
- ▶ 日常の実践に組み込むことによって、他のニーズのためにその可能性を活用したり、最終的にはその可能性に実践を適合させたりすることができる
- ▶ 人は新しいテクノロジーに直面するのではなく、あるタスクを実行したり、タスクをより効率的に実行する必要性などの(新しい) 問題に直面する。重要なのは、異なるテクノロジーの目的や機能全体を理解したり、その可能性を構想する力である。

「現実化し、その可能性を表現！」

「様々な手段(情報収集、アナログツール、本格的アプローチ) 」

(出典: ライチェン・サルガニク, 2006, pp.119-121に筆者加筆)

16

小レポート 課題①

(自分自身の「 態度」や「 価値観」を探求することに重きを置きながら…)

- ▶ 課題: 第4 回までの授業内容、および以下の二つの記事を参考に、「 道具」としての英語(他の外国語も可) について論じなさい。
<https://news.yahoo.co.jp/pickup/6373511>
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ne/18/00046/00001/>
- ▶ 締切: 10月18日(日) 18:00
- ▶ 様式: Wordファイルを添付
*1,600字以上(A4サイズ、40 字×40 行程度で1 頁以上)
*ファイル名は、「 学籍番号 氏名」としてください。
*個別事情のある方は、textファイルか、手書きしたレポートを撮影したjpgファイルなどを提出可。
- ▶ 提出先: LiveCampus → トップメニュー → 授業サポート → レポート → [滝] 社会学A 小レポート 課題①

18

事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学の FD 活動や各部局における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様に提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。

ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。

ご意見・ご要望等はこちらまで ⇒ 名古屋市立大学事務局教務企画室

TEL: (052) 872-5804 Email: kyoumu_kikaku@sec.nagoya-cu.ac.jp